

# 「真の父母様と共に生きる黄金期」

皆さん、こんにちは。

今日は、「真の父母様と共に生きる黄金期」という題目で、説教を致します。

はじめに、聖書を訓読します。

イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。

マルタはイエスに言った、「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております」。

(『新約聖書』ヨハネによる福音書 11 章 25～27 節)

この聖句は、マルタという女性がイエス様を家にお迎えした時に、イエス様がマルタに語り掛け、マルタが答えたシーンです。

イエス様は神の子、メシヤとして人類を神様に繋げるために来られました。そのイエス様と一つになってこそ、サタンの墮落圏から神様の子女圏に帰ることができます。

イエス様は、様々な福音のみ言を語られ、多くの奇跡を起こされました。それはすべて、人類と人類を代表するユダヤ民族がイエス様を信じて神様の元に帰ることができるようにするためでした。

## 真の父母様という存在の価値

現代、私たちはイエス様の使命を受け継がれた真の父母様と同じ時代に生きています。

お父様が 16 歳（数え）の時に霊的にイエス様と出会い、啓示を受けて、人類を神様の元に復帰し、神様を中心とする一大家族をつくるという壮大な夢を神様と共に抱いて生涯を歩んで来られました。

お母様はそのお父様と共にメシヤ、真の父母として歩んで来られ、今も私たちを愛し導いてくださっています。

今、このように皆さんが礼拝を捧げて、み言を聞いて、神様を中心として一週間を出発しようとしていること自体も、真の父母様がいらっしゃらなければなかったことです。

私たちは、真の父母様という存在がどのような価値を持っておられるのかを正しく理解する必要があります。

お父様のみ言から、真の父母について語られた内容について学んでみたいと思います。

復帰摂理において神様のみ旨が成就されるためには、父母が来なければなりません。墮落した父母ではなく、真の父母が来なければならないのです。この「真の父母」という言葉は、皆さんが考えてもいない立場で出会う、そのような言葉、そのような内容ではありません。これは、歴史上、初めて現れた言葉です。これは、歴史にない、奇跡的な大事件です。「真の父母」という言葉を語ることができるのは、今まで生きては死んでいった数多くの父母たちの愛を凌駕する、ただ一度しかない愛をもって現れたので可能なのです。そのような基準をもったので、「真の父母」という言葉を語れるのです。

（(天一国經典『天聖經』第二篇 第一章 第一節 2）

神様は子女である人類を取り戻そうと歴史を通して歩んで来られました。しかし、神様だけでは人類をサタン圏から取り戻すことはできないのです。神様の代身として人類に神様の愛とみ言を伝え、生み変えることのできる真の父母が必要でした。

「真の父母」という表現の対比には、「偽りの父母」という意味が隠れています。

そもそも人類始祖アダムとエバが墮落をしなければ、アダムとエバが人類の真の父母となって、その子供たちが世界中に増え広がっていったはずでした。しかし、サタンによって神様の子女たちはサタンの子となってしまうしました。サタンが偽りの父母となってしまうのです。

それで、サタンという偽りの父母から、かつてのアダムとエバが立つはずだった真の父母の位置に立って人類を取り戻す方が必要だったのです。それでは、アダムとエバから始まる人類歴史上、真の父母という存在が地上に立ったのはいつといつがあったのでしょうか？

実は、私たちが信じ愛する文鮮明・韓鶴子ご夫妻だけだったのです。

イエス様も、地上で実体の真の父母になることができませんでした。本当は真の母となる女性を迎えて

ご聖婚し、真の父母として立って人類を祝福していかれるはずでした。しかし、その使命の途上で、十字架上で亡くなられたのです。

真の父母様は、み言の中で、「真の父母様が」という表現をされることがあります。ご自分のことを「真の父母様が」と表現されるのです。「私たちは」と表現しても良いところを、あえて「真の父母様は」と表現されるのです。それは、真の父母という位相と価値を真の父母様自ら表現して語られるからなのです。

ですから、私たちは常に真の父母様のお写真があり、真の父母様という存在が当たり前のように感じてしまうことがあるかもしれませんが、決してそうではありません。

生まれては死んでいったすべての人類先祖たち、そしてこれから未来の人類が決して地上で出会うことのできない、今この時代にしかいらっしゃらない真の父母様と同じ時に私たちは生き、同じ地上に立ち、同じ空気を吸っている。このことは奇跡なのです。

その奇跡的な時に、私たちはどのように生きていくべきなのかをぜひ正しく捉えていきましょう。

## 真の父母様が見つめられる光景

それでは、そんな時に生きている私たちはどのように生きていくべきなのでしょう。それは、真の父母様のみ言から悟っていくことができます。

君たちが、父母様までも引っ張っていかなければなりません。「父母様がされる仕事を、私たちが代わりにしますので、父母様は休まれてください」と言うことができるようになれば、世界に与えられた神様の祝福を全部君たちにあげられるようになるのです。  
(真なる子女の道 p.190~191)

真の父母様がされる仕事とは何でしょうか？それは、神様を中心とする人類一大家族世界を築くことです。

今はサタン圏にあるこの世界ですが、神様が世界中のどこに行っても、どの個人、家庭、社会、国に行っても、神様が「ここには私の愛があるなあ」と安住することのできる世界をつくることです。

真の父母様は、神様と共にそのような光景をいつも心に描かれながら歩んで来られました。そんな真の父母様が見つめられる光景を共に見つめる私たちになっていきましょう。

真のお母様は、自叙伝の中で次のように語っていらっしゃいます。

私たちは、地上天国で生活してこそ、天上天国に行くことができます。したがって、私たちの目標も、私たちの行く先も一つです。それは、神様の前に誇らしい息子、娘として進み出る道です。神様が、「御苦労だった。我が息子、娘よ！」と言って抱き締めることのできる生活をしなければなりません。私と共に地上生活をしている今この時が、まさに黄金期であるという事実を、心から悟らなければなりません。  
(『人類の涙をぬぐう平和の母』 p.314)

## 黄金期を生きる私達

お母様は、真の父母様と共に生きる今のこの時を「黄金期」と表現されました。お母様の自叙伝の中から、黄金期についてのみ言をさらに紹介します。

困難でつらくても、摂理を終結させ、真実を明らかにしなければなりません。ひまわりのように真っすぐな姿勢で、私たちに与えられた責任を果たすならば、神様の夢、人類の願いは必ず成し遂げられます。問題は、真の母である私が地上にいる間に、その結果を神様に奉獻できるかどうかです。それができてこそ、後孫に向かって、未来の人類に向かって、誇れる自分になるのです。このような時というのは、いつでも訪れるわけではありません。一人の人間にとって、独り娘である私と共に生きるこの時間は、その年齢を問わず、黄金期なのです。黄金期を逃してはいけません。

(『人類の涙をぬぐう平和の母』 p.314)

一般的に、人生の黄金期とは、人生の中で最も卓越する 30 代の頃を言うことが多いと思

います。経験やスキルが身に付き、肉体も体力があり、責任を持って何かをなしていくことができ、結婚して家庭を持ち子供も生まれ、公私ともに充実して卓越する時代です。

しかし、お母様は、「あなたの黄金期は今なんだよ」と教えられました。その年齢を問わず、真の父母様と共に生きるこの時間があなたの黄金期なんだということです。

つまり、皆さんは今中学生、高校生ですが、中高生期の今が人生の黄金期なんだということです。中高生期は、人生の中では社会で活躍していくための準備や基礎を築く期間に当たります。しかし、真の父母様と同じ時代に生きているというだけで、今が人生の黄金期なのです。

## 真の父母様と共に生活する

私たちの人生において、真の父母様と共に生きる黄金期である今、どのようなことを意識して生活すべきでしょうか。

先程お伝えしたように、真の父母様がなされようとされる仕事を共にすることができる行動ができれば良いと思います。

ただ、皆さんは中高生期に何か仕事をなすという立場ではありませんから、まず意識してもらいたいのは、真の父母様と共に生活するという意識です。

文妍娥様が日本の青年学生たちに語ってくださった時、「朝起きて、お母様は今日も健康に起きられたらどうか、ご飯を食べる時、お母様はしっかりご飯を召し上がっていらっしゃるかどうか、眠る時、お母様はしっかり休んでいらっしゃるかどうかと、生活の中でお母様のことを思ってください」と教えてくださったことがありました。

真の父母様は私たちの父母ですから、その夢や仕事を相続しようとする時、子供が親のことを気に掛けるように、まず子女として父母のことを心配し、そのご健康をお祈りする私たちであるように頑張りましょう。

また、お母様は、元老の先輩食口の方々には、「よく生きて、よく死になさい。聖和の瞬間まで一人でも多くの人を伝道しなさい。」と激励されました。

霊界に行く準備をするような高齢にあっても、「今があなたの人生の黄金期なんだ、だから真の父母様のことを一人でも多くの人に伝え伝道し、最後までみ旨を全うしなさい」とご指導されたのです。

私たちも、私たち自身の生き方を真の父母様を見本として自己主管し成長させながら、真の父母様のことを伝えることのできる自分へとなっていきましょう。

今日は、『真の父母様と共に生きる黄金期』という題目で説教を致しました。  
以上で説教を終わります。ありがとうございました。